

## よりよい *e* ラーニング教材を模索して ～2010 秋 *e* ラーニング研修セミナーレポート～

株式会社ニュートン「Newton *e* - Learning 事例報告」編集グループ

今回は、昨年 11 月 20 日に行われた弊社主催 *e* ラーニング研修セミナーについてご報告いたします。会場の横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校様(弊社 *e* - Learning 導入校)には、多数の先生方にお越しいただきました。小樽商科大学・英語 *e* ラーニングプロジェクトの横村栄美先生より、*e* ラーニングの有効活用法についてご講演いただきました。

以下、講演内容からご紹介いたします。

### ■ 「北の外国語学校」 *e* ラーニングと出会う

小樽商科大学様は、今年創立 100 周年を迎える歴史ある国立大学法人です。

学生数は約 2,500 名、学部は商学部のみですが、「北の外国語学校」と呼ばれ、外国語教育、とりわけ英語教育に伝統的に力を入れている大学として知られています。語学教員はどの学科にも属さない「言語センター」に所属しています。



小樽商科大学様(同校 HP より)

欧米の学校制度である 10 月入学、9 月卒業を見据え、平成 20 年度より英語科目が半期化されています。その中に必修ないしほぼ必修科目として *e* ラーニング科目が設置されました。またそれと同時に、TOEIC® IP TEST が導入されています。

### ■ *e* ラーニングを授業に取り入れ単位に活用

英語 *e* ラーニング科目設置にあたり、目的として次の 2 点が掲げられました。

第 1 に、TOEIC® TEST である程度のスコアを取得できるだけの力をつけることです。

1・2 年生では、TOEIC® TEST 400 点以上の取得を目標としました。さらに 3 年生以上では、就職試験等で役に立つだけの TOEIC®スコア(750 点以上)取得を目指します。

第2に、学生の能力や必要性に合った、多種類、多レベル、英作文(Writing)にも対応できる教材の開発・提供です。

教材は、1年生で、Newton e-Learning の同大学オリジナル教材「基礎コース」を平成22年度より導入。ALC NetAcademy2(アルク教育社)のTOEIC®教材と併用しています。2年生では、Newton e-Learning のTOEIC® TEST 対策Bコース(TOEIC® TEST スコア 750 点以上を目指すコース)を採用しています。

授業の様子も紹介されました。学生は教室に入ると棚からヘッドフォンを持ってきて着席。パソコンを立ち上げ、授業用ホームページを開き連絡事項等を確認後、学習を開始します。教員は個別の面談、巡回、学習内容の確認を行います。授業が終わったらパソコンの電源を切り、出席票を提出しヘッドフォンを返却、退室します。

また、メリハリをつけ学習意欲を維持することを目的として、月に1回の小テストを実施しています。

成績評価に際し、1年生では Newton e-Learning の同大学オリジナル教材「基礎コース」、アルク教育社とも、7レッスン以上を終えることと、TOEIC® IP TEST で400 点以上のスコアを取ること、2年生では Newton e-Learning の TOEIC® TEST 対策Bコースのサブコースを7つ以上終える(習熟証明番号を7つ以上取る)こと、小テストを3回受けること、定期試験を受けることを単位取得の条件としました。



講演される横村栄美先生

## ■ 横村先生が考える eラーニングの教材、授業に適した教材とは？

- ①大量であること … 学生の実力差や、授業中だけでなく自習することも考慮し、一定の期間で終わりきれないくらいの大量の問題数が必要です。
- ②多レベルであること … 難しすぎも易しすぎもしない、1人ひとりに合ったレベルの教材提供が必要です(英語を苦手とする学生も、一定の量をこなせば力をつけることができるよう、継続できる程度のレベルの問題を用意する必要があります)。
- ③多種類であること … TOEIC® TEST で高スコアを取得するため、出題される Part 1 から Part 7 の内容を含み、さらには TOEIC® TEST にはない英作文な

ども取り入れた教材が最適です。Newton *e-Learning* では、英-和・和-英の意味やスペルの入力、ディクテーション、写真描写問題、適語選択問題など、問題の種類が豊富である点が非常に有効です。

④小さな目標を設定できること … 小テストを実施することで、学生が個々に次のテストまでの目標を設定できます。また課題量を提示し、設定された期間内にこれだけやっておかないと後々まずい、これだけの量を終えていないと単位がとれないという状況を作ることで、学生は計画を立てながら学習を進めることができます。

⑤ごほうびがあること … 人間はちょっとしたごほうびや変化があるとがんばれるものです。授業でごほうびは難しいところですが、「単位を取る」という大きな目標(ごほうび)があり、そのために学習を続ければ、いずれは自分の力になります。

⑥対面授業との連携がとれるもの、他の学習につなげられるもの … わずかな年数で新たな学習形態としてその地位を確立した *e*ラーニングも決して100%万能ではなく、学習全てをまかなうことはできません。個々の学生のレベルに応じた学習教材を提供できたとしても、学習しっぱなしにならないような配慮が必要です。

## ■ 独自教材の *e* ラーニング化はこんなにもメリットが

小樽商科大学では、*e*ラーニング教材開発プロジェクト立ち上げ以前は、個々の教員で TOEIC®に関連する教材を用いて授業を展開し、それに伴う教材を作成していました。

*e*ラーニング導入後、ALC NetAcademy2 のみでは、教材の少なさ、予算的な問題での他コースの導入やバージョンアップが難しい等の問題が生じました。そこで、Newton *e-Learning* の導入と同時に、弊社との間で教材作成に関する共同研究、プロジェクトとしての立ち上げが実現しました。

教材の作成は同大の英語教員全員で担当し、システム・ハード面は弊社が担当しました。オリジナルに作成した問題を中心に、蓄積した問題を教室でも利用できるようにデータベース化してあります。また、同大学 *e*ラーニングの特徴として Listening 問題ばかりではなく、TOEIC® Part 5 の語彙問題など全ての設問でナレーションを収録しています。

独自教材の作成は、最初は相当な手間がかかるものですが、*e*ラーニング自作教材のメリットとして、

①設問の追加・修正・削除等が随時可能である

- ②問題のシャッフル・レベルを超えた出題が可能である
  - ③レベルごと・分野ごと・項目ごとの問題作成と分類が可能である
- 等をあげていらっしゃいました。

## ■ 教える側からみた教材選びのポイント

Newton e-Learning の管理者用画面からは、学生個人の得意・不得意分野や、学年全体の学生の傾向をみることが可能です。

eラーニングの学習管理は一見面倒そうですが、学習状況、達成率、学習時間等、必要な項目を確認できれば成績評価をすることができます。

教員は、パソコン画面上ではほぼすべての学習状況を確認でき、csv ファイルや Excel ファイルで履歴をダウンロードできます。

「しかし、必要な項目がなかったり、複数のファイルをダウンロードする必要が出てきたりと、面倒な問題があるのも確かです。」

横村先生はこのことを最後に指摘された上で、次のように結び講演を終えられました。「その点ニュートン社との共同開発では、管理上の要望事項を多く、比較的短期間で修正してもらうことができました。管理する側(学校・英語科教員)のことを考えてくれている eラーニングソフトも、よい学習ソフトの大きな判断基準といえるように思います。」

ニュートンプレスからの新刊のお知らせ

<p style="text-align: center;">科学雑誌『Newton』最新号 1月26日発売</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">3月号本誌 最先端技術の必須ビタミン レアメタル レアアース</p> <p>リチウム・白金・ネオジム・ジスプロシウム・インジウム・・・ 注目の5種を徹底解説 定価 1,000円(税込)</p>	<p style="text-align: center;">Newton 別冊 新刊 1月26日発売</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">だれかに教えたくない 科学の不思議 36 知って楽しい身近な?</p> <p>意外と知らない身近なものや現象について、イラストとともにやさしく解説。 この一冊であなたも雑学博士になれる! 定価 2,415円(税込)</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">なぜ、「水と生命」に恵まれたのか? 地球 宇宙に浮かぶ奇跡の惑星</p> <p>この母なる惑星を 私たちはどれくらい知っているのだろうか? 定価 2,415円(税込)</p>
<p>科学の世界へとびらを開く科学雑誌「Newton」を定期購読しませんか? 毎月26日発売年間購読定価 12,000円(税込) 詳しくは、<a href="http://www.newtonpress.co.jp">http://www.newtonpress.co.jp</a> または『Newton』内の定期購読募集ページをご覧ください。</p> <p style="text-align: center;">お問い合わせはニュートンプレス営業部 (TEL: 03-5352-6054) までご連絡ください。</p>		

※ 株式会社ニュートンプレスは、科学雑誌『Newton』を発行している弊社のグループ会社です。